

第3回東郷町地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会議事録〔要旨〕

【開催日時】

令和元年6月20日（木）

開会 午後3時

閉会 午後4時50分

【開催場所】

役場 2階 大会議室

【出席委員：12名】

佐野 治 （静岡英和学院大学 人間社会学部 教授）
木村 誠子 （瀬戸保健所 健康支援課長）
亀井 洋太郎（東名古屋東郷町医師会 代表）
猿渡 伸司 （愛知県尾張福祉相談センター 次長兼地域福祉課長）
杉原 辰幸 （東郷町社会福祉協議会 会長）
杉本 久 （東郷町障がい者団体連絡会 代表）
住田 敦子 （尾張東部成年後見センター センター長）
笹野 真智子（社会福祉法人東郷ひなた 理事長）
山下 律子 （NPO法人地域の応援団えがお 代表）
石川 環 （東郷町老人クラブ連合会 会長）
井口 真治 （東郷町子ども会育成連絡協議会 会長）
岡澤 京子 （公募委員）

【欠席委員：3名】

松宮 朝 （愛知県立大学 教育福祉学部 准教授）
近藤 正弘 （東郷町民生委員児童委員協議会 会長）
真野 幸則 （東郷町駐在員会 会長）

【傍聴者：0名】

【議題】

- (1) アンケート調査及び団体ヒアリング調査の結果について（資料1・2）
- (2) 計画骨子（案）について（資料3～5）
- (3) 今後のスケジュールについて（資料6）

【会議の概要】

- 1 委員長あいさつ
- 2 委員自己紹介
- 3 議題
- 4 意見交換
- 5 その他

1 委員長あいさつ

(委員長)

皆様こんにちは。お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。今回は第3回目になり、骨子という形で骨組みが登場します。地域共生社会の実現に向け、工程表も示されました。かなり取組が進み、2020年度の初頭に向け地域づくりを進めていこうという動きがあります。現在、国のモデル事業として、かなり意欲的に進めている自治体が、愛知県内では岡崎、豊田、長久手、東浦の4つあります。豊田市などのホームページにも取り上げられています。東郷町も負けないように、地域福祉計画・地域福祉活動計画の第一歩が進行されていますので、良い計画をつくり、2020年度以降も耐えうることができ、町民の方々の幸せに直結するような計画にしていければと思っております。

本日は、忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

2 委員自己紹介

※各委員自己紹介

3 議題

(委員長)

では、次第3「議題」に入らせていただきます。議題が3点ございます。(1)～(3)まで全ての説明をしていただき、次第4「意見交換」で、皆様からご質問やご意見をお願いしたいと思います。それぞれの団体や機関からご出席を賜っていますが、意見を伺い、私も最後に意見交換に参加しながら進めたいと思います。それでは、事務局よりご説明をお願いします。

(事務局)

<資料1・2に基づき「(1) アンケート調査及び団体ヒアリング調査の結果について」説明>

<資料3～5に基づき「(2) 計画骨子（案）について」説明>

<資料6に基づき「(3) 今後のスケジュールについて」説明>

(委員長)

ただ今、事務局より「議題(1) アンケート調査及び団体ヒアリング調査の結果について」、「(2) 計画骨子（案）について」、「(3) 今後のスケジュールについて」の説明がありました。この後、

意見交換の時間を設けてございます。配席表の順で、時間の都合上3分程度でご意見を願います。

4 意見交換

(委員)

たくさん資料がありましたが、わかりやすい説明をしていただきました。アンケート結果やヒアリング調査、計画骨子案等もある中で、町民の方を対象にしたアンケート結果に、とても面白いデータがあったように思いました。

私は以前、他の保健所に勤めていたときに、自殺対策計画の策定委員会に出席していました。その際も、やはり地域を巻き込んで取り組まれており、市民の方40人から50人くらいでグループワークをしました。先ほど、地域づくりは計画策定において大事な視点だということを先生がおっしゃっていました。そのワークショップの中でも、ご近所づきあいで挨拶がなかなかできていない、地域の中で声をかけ合うことが大事ではないかななどの声がありました。

このアンケートの中でも、身近な相談窓口についての項目がありました。今回、初めてアンケート調査を行ったということで、過去のデータと比べることができないため、ご近所での声かけや、助け合いの意識が高いのか、低いのかはわかりません。今後、このような機会があれば、経年的に推移をみると変化がわかるのではないかと思います。

ご近所づき合いが希薄になっていることは、皆様も身近に感じていらっしゃると思います。小学校区について見ると、諸輪小学校区はとてもいい結果が出ていました。みんなで助け合う意識が高いようでした。なぜ、諸輪小学校区がいい結果だったのか理由がわかれば教えていただきたいと思います。地域特性もあり、小学校区ごとに見ていくことは興味深いです。

県では自殺計画を策定していますが、市町でも自殺計画を策定するというので、やはり相談窓口が大事だと思います。自殺の背景には、過労やストレス、生活困窮、子育てや介護の疲れ等で仕事に支障をきたして職場復帰ができないなどの社会的な問題があり、死に追い込まれることがあります。原因を特定することは難しく、どこに相談に行けばいいのかわからないという声が多いので、計画を策定するにあたって身近な窓口を明白にできると相談しやすくなるのではないかと思います。そこから支援につなげていくことが大事です。生活困窮の担当課で相談を受けたけれど、生活困窮以外の相談もあれば他の担当課につなぐということが大きなポイントかと思います。相談を受け付けるだけでなく、つないでいくということを、わかりやすい形で、庁内での連携の強化や、ネットワークの整備をしていただければと思います。自殺計画の策定の際には、庁内の色々な担当課で何ができるかを話し合う場がありましたが、地域福祉計画においても事業の棚卸を行い、どうつないでいくか、問題になっているのは何か等、みんなで話し合っていければいいのではないのでしょうか。

(委員)

3点、申し上げます。

1点目、私は産業医の資格の講習会を受けていましたが、仕事をしている方の場合、オーバーワークでうつになり自殺する人が多いです。資料では、若い人たちの場合は失業したり、仕事

に就けないことから、うつになって自殺する人が多いという結果が出ていました。

私が診療する中でも、若い人たちのひきこもりが多くなっているように思います。小さいときから見ている子たちがいますが、20代からひきこもりになってしまった子が多いです。保護者の方にも、子どもをどうやって外に出せばいいのかわからないとよく相談されます。その子たちが相談する場所がないので、地域に相談窓口があるといいと思います。自治会の集会所は、何も集まりがないときは閉まっていますが、例えば9時から5時は必ず開けておき、高齢者の方でも誰でもいいので、相談できる人が常にいるようにしてはどうでしょうか。高齢者の方も生きがいを感じると思います。

2点目、アンケート結果の最初に回答者のデータがありましたが、50パーセント以上が60歳以上となっていました。若者から見た視点がもう少し拾えるといいのではないかと思います。

3点目、諸輪地区は昔からある地区なので、地域住民のつながりが強いのではないのでしょうか。私は、諸輪地区のアンケート結果を見て納得しました。他の地区は、新興住宅街になってきているため、お互いのつながりが希薄だと思います。

(委員長)

今、委員から、地域の相談窓口として集会所を使ってはどうかというご意見がありましたが、それは社協の仕事ではないのでしょうか。地区社協をつくり相談機能を持たせて、小学校区単位で高齢者からの相談を受けるというのは、国が進めている政策そのものなので、ぜひ検討していただきたいと思います。そのようなことが一番遅れていると思います。(アンケート調査結果からわかる)課題の9割くらいは、社協が取り組むものが多かったので、6年後にどうなるかを考えてもらえればと思います。数字から見て社協の使命があるのではないかと思います。

(委員)

もう1点、ボランティアについて申し上げます。海外ではボランティア活動が盛んですが、日本ではあまり盛んではありません。最近、災害時に高校生がボランティアに行ったりしていますが、子ども会を使ってボランティア活動に取り組んだりすると、もっと盛んになるのではないのでしょうか。私自身も、名古屋シティマラソンで医療ボランティアをしています。それ以外では特に何もしていません。本当はもっとやりたいと思っているのですが、やる場所もわかりません。ボランティアに関する情報を集めて、広げていくといいのではないのでしょうか。

(委員長)

社協とボランティアセンターをつなげるところからだと思います。社協も本業なので活躍してもらわねばなりません。委員から社協という言葉が出なかったのですが、やはり出てきた方がよいと思います。

(委員)

3点、申し上げます。

1点目、自殺やひきこもりという課題が出ましたが、アンケート調査によると、特に関心のあ

る内容として高齢者が挙がっており、また、社協に期待されるのは高齢者の見守りとなっています。やはり高齢者がポイントなのではないかと思いました。行政には公助、地域には共助、自分たちや自分には互助や自助という役割があります。アンケートの中で、行政に対して何をしてほしいか、自分たちで何ができるか、自分で何ができるかが、ある程度回答として挙がっています。このようなことを踏まえて、アンケート結果を具体的に分析していただきたいと思います。

2点目は、地域福祉計画そのものについてですが、資料4の5ページの「計画の位置付け」に「第5次総合計画を上位計画とし、その基本理念や将来像、施策に掲げる目標を踏まえています。同時に、各種関連計画（東郷町障がい福祉ビジョン、東郷町子ども・子育て支援事業計画、東郷町高齢者福祉計画、いきいき東郷21等）を横断的につなぐ役割を担っています」と書いてありますが、これは具体的にどのようなことでしょうか。例えば、高齢者福祉計画は私も関係しているのですが、介護保険施設等の施設数をどうしていくかなど、目標を達成したかどうか具体的な数字で出てきます。地域福祉計画は抽象的になりがちですが、なるべく具体的なものにしていきたいです。

3点目は、生きがいづくりについてです。計画の中には入っていなかったように思いますが、高齢化が進み、退職後どうしようと思っている方も多いので、個々の生きがいづくりも今後大事になってくるのではないかと思います。

（委員）

膨大な資料のアンケートだと思いました。その中で、2点申し上げます。

1点目は、例えば、資料1の34ページの「問29 あなたは、今後、社会福祉協議会にどのような分野での役割を期待しますか」において、「高齢者の介護や見守りに関すること」や「福祉に関する情報の発信」の数値が高くなっています。しかし、情報については東郷町のホームページや広報、社協の広報でも発信していると思います。皆さん、関心の掘り起こしをする必要があると思います。

2点目、45ページの「問3 地域活動の中で、他の組織・団体との連携はありますか」において、「問3-1 連携がある組織・団体は次のうちどれですか」の回答で、残念ながら社協の数値は高くなく7番目です。やはり、社協自身もっとやるべきことがあるのではないかと強く思います。個々のボランティアの方はとても努力されており、29日には東尾張ブロックボランティア集会を東郷町で開催されますが、ボランティアについては、できれば組織だって考えていただければと思います。

（委員）

要領よくまとめていただいた説明だったので、よく理解できました。今回配られた資料の中に、会議資料の論点という括りがありましたが、その中でとても難しいのではないかと考えたのが「丸ごと受け止める」という表現です。これはどのような受け止め方を言っているのでしょうか。困りごとや悩みを丸ごと受け止めるということですか。他のアンケートでも、ボランティアをしませんかという、忙しいからできないという回答が多いですが、実はできない理由に適切な回答がないからそう言っているように思います。地域福祉は、お互いの助け合いによるもので

すが、それぞれ個々にプライバシーがあり、その部分については計り知れないところがあると思います。「丸ごと」というのが、どのようなことかをお聞きしたいです。

(委員)

2点、申し上げます。

1点目は、集計についてです。例えば、資料1の5ページの間6で居住年数について聞いています。このアンケート自体の回答者は60代から90代の方が約53%、10代から40代の方が約42%です。年齢が高いほど居住年数が長いと思われそうですが、若い世代がこの分布の中のどこにあるのかがわかると、東郷町でずっと暮らし続けるために、どのような住みやすい町が必要なのかという視点を入れることができると思います。

また、25ページの間21についても、前回の会議で「インターネット」を選択肢の中に入れた方がいいというご意見があり追加されていますが、同じようにクロス集計があると、どのような年代の方が、どのように情報を仕入れているのかがわかるのではないかと思います。

さらに、33ページの間28では、組織や制度について知っているかを聞いていますが、相談窓口が今後重要になるという点において、社協、地域包括支援センター、障がい者相談支援センター、民生委員や児童委員についても、どの年代の方がどのような窓口があることを知っているのかがわかると、アプローチの仕方が変わってくるのではないのでしょうか。社協や民生委員は、「名前も内容も知っている」「名前は聞いたことがあるが、内容はよく知らない」を合わせた数値が70%以上になります。

また、このアンケートでは高齢者支援について多く掲げられていますが、地域包括支援センターは「名前も内容も知っている」「名前は聞いたことがあるが、内容はよく知らない」を合わせた割合が56.9%しかないため、より周知が必要だと思います。障がい者相談支援センターは、名称からどのような機関かわかりやすいと思いますが、地域包括支援センターはとても大切な役割をしているのに、あまり内容を理解されていません。

併せて、団体ヒアリングについてですが、たくさんの団体が町内で活動をされていますが、間2や間4にクロス集計があると、どこの団体がどのようなところとつながっていきたいのかがわかりやすいと思います。一つずつをつなげていくのは大変なので、6つの(団体)区分別にクロス集計があると、現在どことつながっていて、今後どことつながっていきたいのかがわかるかと思います。

2点目について、資料5の中で「基本目標4 適切な福祉サービスの提供」と掲げられています。サービスにつなぐことが大事なのですが、制度の狭間に落ちてしまう方や、ひきこもりの方等、なかなか福祉サービスにつながらない方もいらっしゃいます。

そのため、福祉サービスを限定していくような書きぶりではない方がいいのではないのでしょうか。それ以外に社会資源の創設も含めて、サービスにつながらない方をどうしていくのかを、「基本目標3 丸ごと受け止める体制づくり」の中でしっかりと充実させていくのか、「基本目標5 見守り・支え合い体制の充実～合言葉はお互いさま～」の中で取り組むのか、そのような方についての視点も、計画中のどこかにしっかりと入れておく方がいいと思いました。

(委員長)

基本的な項目については、クロス集計を入れていただければと思います。

(委員)

資料にざっと目を通したときに、ボランティアに興味はあるけど時間がないからできないという回答が入っていましたが、それは本心だろうと思います。

ただ、私が障がい者の事業所等で思うことは、障がい者のボランティアに突然興味を持たれる方は少ないですが、高齢者のボランティアに興味を持たれる方はたくさんいらっしゃるの、そこを進めていくことで余力ができ、障がい者の方まで気にしていただけるといいなということです。

先ほど、ひきこもりの話がありましたが、新聞を読んでも、ひきこもりの方は多いと感じます。私の知り合いにもひきこもりの方がいらっしゃいますが、相談窓口がわからないと言われています。私の知っている範囲でお伝えするのですが、実際に本人が動かない限りは先には進みません。窓口やリーダーが必要という内容になるほどと思いました。

(委員)

2点、申し上げます。

1点目は、資料5の基本施策の中で「小地域：地域の見守り体制の充実」とありますが、この「小地域」はどのくらいの大きさをイメージされているのでしょうか。資料1の6ページの『「地域での支え合い」というときに、あなたが考える『地域』とは概ねどの程度の範囲ですか』という一般住民への質問に対して、一番多い回答が「となり近所（隣組や10世帯程度の身近な集まり）」であり、その次に「行政区（区・自治会）」となっているので、大きくても行政区、自治会というのが「地域」という認識ではないかと思います。「小地域」を区、自治会と考えて施策を組まれるのであれば、具体的な行動指針や目標の中に区や自治体は何をするのか、みんなでどのような取組をするのかという内容を入れていくと、区長さんや色々な方々にも自分たちの地域では助け合いのために何ができるのかという意識付けになり、具体的な取組につながりやすいのではないのでしょうか。大まかに「地域」、「小地域」という書き方をされると、他人事になってしまいがちです。あまり強制してはいけませんが、自治区ごとにどうするか具体的な内容にする方が、助け合いの地域づくりに向けてみんなが進めていけると思うので、お考えいただければありがたいです。

2点目は、他の委員の方でも言われていた「丸ごと受け止める体制づくり」についてです。スローガンの的にはそのようなものだと思われるかもしれませんが、私の思う「丸ごと受け止める」は、今後、認知症の人を地域の中でどう受け止めるかということです。高齢者はどんどん増えています。80歳以上であれば4分の1は認知症になります。周りが認知症の方だらけになってしまいます。施設に入れればいいという考えは到底不可能です。施設数もなく、介護する職員も充当できません。地域の中で支援するというよりは、地域の人たちが認知症の方のことを理解し、そばで見守り、多少おかしいことをしても、「あなたはそれで大丈夫だよ」と受け止められるようになれば、きっと支えていけると思います。うちのデイサービスに来られている認知症の60

代の女性で、長年続けられていた地域の卓球クラブがあり、毎週そのクラブに参加するのが生きがいの方がいらっしゃいます。支援しながら続けられてきたのですが、地域のスタッフの方から「私たちのサークルは健常者の集まりだから、認知症の人は連れてこないで」と言われました。高齢者の囲碁のサークルでも、認知症の方に対して「あの人は変なことを言う人だ」と言われることがあります。すぐ忘れてしまうので囲碁を指す順番が分からなくなったりするのですが、サポートがあれば楽しむことができます。

しかし、周りの方が「またおかしい奴が来た」と言って排除してしまうのが現状です。地域での色々な集まりや楽しみの方、生きがいは認知症になっても必要です。地域の方々に認知症の方を丸ごと受け止める覚悟があるか、覚悟をどうつくるのかを考えねばなりません。覚悟をつくらないと、多分破たんしてしまいます。「丸ごと受け止める」ということについて、もう少しシビアに物理的に考えていただけるとありがたいです。

(委員)

3点、申し上げます。

1点目は、老人クラブについてです。東郷町だけでなく、日本中がそうですが、高齢者がどんどん増えています。にもかかわらず、老人クラブの会員数は、年々減少しています。これは東郷町だけでなく、愛知県全般で同じ傾向です。老人クラブは年間1,000円で入会でき、非常に色々なサービスが手厚く受けられます。参加しないとネットワークが遮断されてしまうので、高齢者のひきこもりの問題が大きくなってくるだろうと思います。これが老人クラブの課題です。理由は、家族葬が増えたということを感じています。

2点目は、高齢者についてです。町で6月1日から社会参加ポイント制度が始まりました。スタートから効果を感じており、期待しているところです。計画の中で高齢者に関することは重要になってくると思います。私もあと10年くらいで免許を返納しなければならず、そのときに自分はどうすればいいのかを考えてしまいます。東郷町は交通網が脆弱なので、今後の対策として、じゅんかい君とは別に、赤池や徳重等の地下鉄の駅へ名鉄バス等で行けるような交通体系づくりが非常に大事になってくると思います。

3点目は、組織・団体の連携についてです。区長、自治会長のアンケートの中で、これから連携したい組織・団体についての質問で「他の自治会」の数値が高くなっていました。また、現在連携がある組織・団体についての回答でも「他の自治会」は数値が高くなっていました。

しかし、実際のところ各区長さんや自治会長さんは多忙の極みで、他の自治会と連携どころではないのではないかと思います。これは行政の方で、もう少し区長さんや自治会長さんの余裕ができるような施策が急務ではないかと思いました。どこの団体も人材不足です。老人クラブはその年度の役員がどんどん年を取ってもやっているのですが、後継の問題は、25ある老人クラブの会長の皆さんがそれぞれ言われており、非常に問題であり、今後の課題だと思っています。

(委員)

1点目、これだけのアンケートを取っていただいたので、おそらく何らかのアクションは取っていただけると思うのですが、アンケートの回答者は興味を持っていると思うので、できるだけ

早く何らかの形で報告を出していただけるといいかと思います。

2点目、資料3（p26）で、連携したい組織・団体についての質問で「保育園・幼稚園・学校」、「区・自治会」がトップに挙がっていますが、今回、委員名簿の中は一切入っていません。この委員会の委員さんをどのように決められたのかはわかりませんが、教育長や自治会長、区長が出席されても、おかしくはないのではないかと思います。そのような方々がいると、私よりもっといい意見が出て参考になったのではないかと思います。

3点目、今の50代は独身の方が多いと思います。今後、その方たちが60歳になっても年金がもらえません。会社に行っている間は大丈夫なのですが、65歳で定年になって何をしようとなったときに近所づき合いがなければ、知らない間に亡くなっているということが、今後、起こりうると思います。そのような時に、社協が面倒を全部みるような感じに取れてしまいます。やはり、社協だけで全部の面倒をみるわけではなく、役場の色々な活動に色々と投げかけしていった方がいいのではないかと思います。

4点目、私たちの会にも若い人たちが入ってきているのですが、今の子は目の前に相手がいても、携帯のLINEで連絡を取り合っています。LINEで言葉を返してくるような後輩もいます。年休を取る場合も、電話ではなくLINEで流してきます。その子たちがアンケートの対象者になる時代が来ると、もっともっとアンケートの回答も変わってくるのではないのでしょうか。5年後も、うんと変わっていると思います。セントラル開発が終わり、住宅ができてきたら、もっと色々な人が東郷町に入ってくると思うので、そのようなときにも対応できるようにならねばと思います。

（委員）

資料3の13ページにワークショップとありますが、私も参加させていただきました。色々な人と話し合うということは、すごいことだな、色々な意見が出るんだなと実感しました。なかなか、このようなところに率先して足を運ぶことはなかったのですが、やはりいいものだと感じました。

その中で、免許返納の話が出たのですが、私たちも高齢者になり、そろそろ免許返納について考えております。東郷町にはじゅんかい君というバスがありますが、利用したことがありません。どう乗るのか、お金がいるのか、いらぬのか、意外とそのようなことに無知です。話し合いの中で、私たちくらいの年代でじゅんかい君を利用したことがない人たちに声をかけて、じゅんかい君に乗るツアーをしようとなりました。4月に諸輪の方に桜を見に行ってみると言いながら皆さん忙しく、9月には絶対に実施しようとなりました。私は、春木台に住んでいますが、春木台からどうすれば行きたいところに行けるかを、みんなでやってみようと言いました。自分のできることは、歳を取っても自分でしたいと切に感じます。

また、つなげる人、ファシリテーターを育成するということは、本当に大事なことだと思います。自治会やPTA等は、1年単位でころころトップが変わるため、自治会長さんに何かを質問してもわからないということが多々あります。なかなか専門性を持たせることは難しいと感じます。私は、更生保護女性会というボランティアグループを6年間やっていますが、やはり長くやればやるだけ、とてもよくわかり、色々なことが見えてくるので、やっていてよかったと思います。

す。大変だと思いますが、地域をつくるために、つなげるために、いい方法で人材を育成していただきたいです。

(委員長)

今、委員の皆様からいただいたご意見の中で、答えられる範囲で事務局より回答をお願いいたします。

(事務局)

「丸ごと受け止める」相談支援体制についてご質問がありましたが、簡単にできる体制ではないということは私どもも重々承知しております。「丸ごと受け止める」という意味は、今、地域福祉の課題の中にも挙げましたように、認知症の人の認知症の問題だけをみるではありません。例えば、その家族をみても、一緒に住んでいる息子さんがひきこもっていたり、お母さんに精神的な障がいがあったりなど、一つの支援の対象者の方を見ても、複合的な課題を抱えている現状が多くあることを感じます。このような課題を、それぞれ縦割りで対応するのではなく、一旦地域の中の民生委員さんに相談してもらい、その民生委員さんが役場につなぎ、切れたり、縦割りになったりせず受け止めることができればと考え、このような表現にさせていただきました。

「丸ごと」と言うと、「全て」という意味合いになりますが、実際には、委員も言われたように、認知症の方の支援一つをとっても地域の中で理解をしてもらえなかったり、正しい知識を持っている方が少ないため、間違った対応をしてしまったりする現状があります。どの程度地域の中で受け止めていくことができるかは、まだまだ未知数です。

今回の計画は第1期なので、まずは行政として認知症サポーターを養成するように、認知症の方に対しての正しい知識等を普及させ、自分たちが地域の中で認知症の方と出会ったときに少しでも正しい対応ができる人が増えるよう、人材育成の視点から取り組んでいくことが大切だと思います。認知症だけではなく、発達障がい、精神障がい、うつ、ひきこもり、様々なテーマの正しい知識、正しい対応方法等を、行政や社協、様々な機関が周知や啓発を繰り返していくことで、どんな困りごとであっても、地域の中で受け止めることができるようになるのではないのでしょうか。そのような体制をつくるのが、今、求められているのではないかと考えております。

次に、基本目標4についてですが、サービスの提供だけでなく、ひきこもり等制度の狭間の方、支援につながらない方への支援についても、どこかに入れてほしいということでした。まだ、基本目標の方には記載できていませんが、行政や社協の既存の制度や施策では支援の手が届いていない方に対しての支援、見守り、声かけについては、共助や互助で地域の方やボランティア、福祉関係の団体との連携により、地域の中で取り残されることがないように、インフォーマルな部分での支援もきちんと考えていく必要があると思います。実際にどのように基本施策の中に盛り込んでいくかは、今後、検討させていただきたいと思います。

次に、「小地域」の単位についてですが、一番小さくて組・班、自治会、小学校区までを考えております。この中で、区や自治会の具体的な取組を明記できると、実際に地域づくりを進めていく上で大きな一歩になると思います。先ほどお話もありましたが、区長さんや自治会長さんは

1年単位で変わることが多く、また地域のイベント等で多忙を極めていらっしゃる現状もあり、第1期の計画でどこまで載せていくかについては、今後、検討させていただきたいと思います。

(委員長)

皆様のご意見を聞いたり、アンケートを見ると、「小地域」の単位としては向こう3軒両隣が一番理想かもしれません。

ただ、その規模はなかなか難しいので、大きくても小学校区単位がいいのではないのでしょうか。小学校区なら歩いて行ける距離だと思います。歩いて行ける距離に、地域の組織体である地区社協ができ、地域活動の担い手の育成をしたり、ボランティア活動の拠点になれば一番良いのではないかと私は思います。6年間に渡って、小学校単位で小地域での組織体はどうしても必要だと思います。6年間を見通した組織体を整備されてはどうでしょうか。

(事務局)

先ほどの数字から、各地域で相談体制を整え、地域共生を推進することは、当然、望ましいことだと思います。小学校区単位か自治会単位かについては、自治会単位では細かく対応できると思いますが、ただ数がかかなり増えてしまうということも当然あると思います。

小学校区単位での組織づくりは望ましいと思うのですが、それを社協でとなると大変難しいのではないかと思います。今後6年という、長いようでそう時間はありません。地域共生社会を実現するには、社協だけに限らず、各地区での受け皿づくりがとても大事です。色々な方のご意見を伺いながら進めていきたいと思っています。

(委員長)

社協だけが全てをやるのではなく、社協に音頭を取ってもらい組織体をつくるという意味合いでの地区社協です。旗振り役、取りまとめ役、調整役をやっていただくということです。相談していただいて、前向きに検討していただければと思います。

(事務局)

前向きかどうかはわかりませんが、検討させていただきます。

(委員長)

資料4の骨子案の8ページに社協の行動指針を掲載予定ですが、行動指針は掛け声のようなもので、(町と)両輪で進めるものなので、この位置で良いのではないのでしょうか。

(事務局)

掲載する位置はここでもいいと思うのですが、社協の行動指針となってしまうと、先に申したようなことと捉える方もいらっしゃると思います。

(委員長)

そう捉える方はおられないと思います。社協の行動指針は、みんなで地域福祉を進めようという抽象的なものであり、具体的に何かの施策をどうするという大きなものではありません。「地域福祉は両輪でいく」ということを見せるための抽象的な掛け声のようなものです。町の方は「最後まで自分らしく暮らせるまち」としていますが、見せ方のようなところもあると思います。社協の意気込みを見せるくらいの感じでいいのではないのでしょうか。

(事務局)

誰から見てもわかるような、もう少し適当な表現があるといいかと思います。

(委員長)

では、全体的に見て、他に何かご意見はございますか。

(杉本委員)

1点、質問させていただきます。地域福祉計画は町がつくりますが、具体的な活動は社協さんがやるということになるのではないのでしょうか。

(事務局)

そのとおりです。

(委員)

資料5のように、基本目標をどのような形でやっていくかということ、それが社協の行動指針になるのではないかと思います。資料4の5ページに「連携」と書いてありますが、これではかなり社協が動くことになると思います。ここがちょっと違和感を、私は感じました。

(委員長)

連携して両輪でやっていくという意味です。行政がやっていけば社協も動き、お互いに取り組んでいく、ただ、地域福祉計画は行政計画になりますので、町につくる役割があります。

(委員)

地域福祉計画ということで、最小単位を隣組等にするのではなく、もう少し大きく自治会等の区長さんが取り仕切っている単位になるだろうことは理解できました。

もう1点、お聞きしたいのですが、私が質問した「丸ごと受け止める」について、資料5の「丸ごと受け止める体制づくり」とは、行政として何かを受け止めたなら、縦割りではなく、これは住民課へ、これは福祉課でやるなど、システムづくりをするということなののでしょうか。突っ込んだ形の計画を策定するつもりなのですか。先ほどの説明からは、マニュアルまで必要ないという感じに聞き取れました。「丸ごと受け止める」に関しては、このステップではこれをして、本人の事情を調べるのはどこがやって、誰かがサポートしながらどこへ連れていくのかということまで、突っ込むのかと受け止めました。

(事務局)

計画の進展具合だと思いますが、そのような形でやっていかないとなかなか（困りごとを）吸い上げることはできないと思います。仕組みをつくるのが一番大きな目的ではないでしょうか。

(委員)

具体的に出来上がって見ないとわからないものを、今ここで仮想的に色々なことをお聞きしてもいけません、私はそう感じました。

(委員長)

他にご意見はございますか。

ないようですので、本日の議題はこれで終了になります。

事務局から示していただいた資料等は、東郷町地域福祉計画・地域福祉活動計画の体系の中の、基本理念、基本目標、社協行動指針は検討中ですが、基本施策と資料4の計画の構成のところにある地域福祉計画と地域福祉活動計画に加え、第5章の自殺対策計画、第6章の成年後見利用促進計画も含めて、このような大きな枠組みでやっていきたいと考えております。承認をいただけますでしょうか。

<承認>

(委員長)

ありがとうございました。では、これで本日の議題は終了しましたので、事務局にお返しいたします。長時間にわたり議論いただきありがとうございました。

5 その他

(事務局)

次回の策定委員会ですが、先ほどスケジュールの中で申し上げましたとおり、10月を予定しております。正式な日時が決まりましたら追って連絡をいたします。

閉 会